

NEWS LETTER



京都教育大学

Kyoto University of Education

第33号(2017.3.31)

附属教育実践センター機構

Organization of Educational Research and Practice Centers

教育支援センター

Educational Support Center

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

第90回国立大学教育実践研究関連センター協議会について

平成29年2月14日(火)に東京学芸大学教育実践研究支援センターで第90回国立大学教育実践研究関連センター協議会が開催されました。本学からは西井教授が総会及び部門会議に出席しました。

総会では、年度計画、会計報告、規約の改正などの報告事項の後、部門プロジェクトの報告があり、「教師の成長・発達と教員養成の役割に対する大学教員の意識」をテーマとして国立大学教員養成系大学・学部、教職大学院の教員を対象として「教師の成長・発達と教員養成の役割について質問調査が行われ、研究者教員と実務家教員の教師発達観や教員養成観を探索した結果についての発表がありました。大学時代に身に付けるものとして研究者教員は「主に学びの省察や子どもの発達に関わる資質能力など個人の課題解決に資する経験「個人の学び」を重視し、実務家教員は「主に社会人としての素養や同僚との連携・協働に関わる資質能力などコミュニティでの経験「組織の学び」を重視しているとの報告がありました。研究者教員と実務家教員の教師発達観や教員養成観の捉え方の違いについてどちらの捉え方が良いということではなく、このような認識の違いをふまえた上で「教師の学び」の視点から現在の教師教育を捉え直すことが重要であるという結論でした。

教育実践・教師教育部門会議では、大阪教育大学から教職教育研究センターが、今日的な教育課題と養成に、よりの確に対応するため、大学と地域社会を結ぶ研究と教育実践の拠点としての役割を担うことを目的として設立され、現在の3部門体制へと組織的な整備が行われてきたことについて説明がありました。

次に、センターを巡る課題としては、①センターが地域に開く窓として「中心」となりえているのか。②「学問の世界」へ「教育現場の息吹」を浸透させることに成功しているのか。③「有能な実務担当者」か「便利使い」か(現場に近い設定の授業や実習など重要な役割を担っている)。④教員養成改革の拠点となっているのか。⑤「改革の担い手」としての自負と学内評価は一致しているのか。など学内で重要な役割を果たし貢献しているのだが、大学本体ときちんと繋がっているのかということが課題提議され、上越教育大学と琉球大学からの情報提供を踏まえて討論が行われました。

精華町立精華中学校大学訪問について

3月7日(火)	精華町市精華中学校	2年生 32名	学生ボランティア 6名
目的	キャリア教育の一環として、大学訪問を行い大学や大学生について知る。		
内容	大学紹介、大学の授業見学、学生への発表、質疑応答、学食での昼食、キャンパスツアーほか		

※明るく素直な学生たちばかりで、未来教室対応・高度化授業研究室の椅子や設備をみて自分たちの学校にもほしいという感想を多く聞きました。

学び続ける教員へのメッセージ（講演会）について

教職キャリア高度化センター及び教育支援センターが共催し、『学び続ける教員へのメッセージ（講演会）』として、京都府・京都市の教職員、学生・院生を対象とした公開講演会を3月11日（土）に開催しました。今回は、大阪大学大学院人間科学研究科教授の志水宏吉氏をお迎えし『力のある学校』をつくるーすべての子どもの学力保障のためにーと題して講演会を行いました。

当日は、京都府・京都市を始めとして大阪教育大学・奈良教育大学など全国各地から約200名の現職教員・大学院生等の参加があり、志水氏から「1. 新しい学習指導要領のコンセプトについて、2. 学力格差の現状について、3. 根っこの学力を伸ばすには！、4. 「力のある学校」のスクールバスモデルについて、5. 学校現場での教師の役割」等について講演があり、学力保障の重要性やそのための学校づくりや行政のあり方が指摘されました。会場の参加者からも活発な質問等が行われ、次のような感想が多く寄せられました。「大変勉強になった。学力向上、学力保障の視点を明確にできた。つながり格差や根っこを強くする点から再考したい。」「わかりやすく話をしていただき、自分の学校・地域をイメージして考えることができた。」「教育は、それぞれの立場でベクトルをあわせて進むことが大切であるとあらためて認識しました。」

退任のごあいさつ

教育支援センター 准教授 今野 勝明

京都府教育委員会より派遣され、平成26年4月1日より3年間にわたり教育支援センターに勤めさせていただきました。在職中は、先生方をはじめ多くの方々にご指導、ご支援をいただき、誠にありがとうございました。

また、授業や就職支援などを通して、これからの時代を創っていく学生の皆さんと一緒に活動できたことは、私にとっても多くの学びを得る機会となりました。

今後、京都府の学校現場等に戻りましても、これまでのご指導や学びを生かして、様々なことにチャレンジしていきたいと考えております。本当に、ありがとうございました。

幼児教育専攻学生による board deco



テーマ「そりにのって雪遊び」

機構棟玄関正面の貼り絵は、季節とともに替わります。かわいらしい貼り絵を見に来てください。



テーマ「おはよう、春ですよ！」

教育支援センター

センター長／モラル・人権意識向上教育部門

教育実践連携部門

実地教育部門／就職・キャリア支援部門

実地教育部門／就職・キャリア支援部門

実地教育部門／就職・キャリア支援部門

実地教育部門（兼任）

関口 久志 075-644-8326 sekihisa@

樋口とみ子 075-644-8337 tomiko@

西井 薫 075-644-8806 kaoru@

岡田 敏之 075-644-8214 okada@

今野 勝明 075-644-8216 konno@

小山 宏之 075-644-8281 koyama@

ボランティアオフィス 075-644-8336（月～水・金 10時30分～13時30分、木 10時30分～14時30分）sien@

運動部活動指導者育成室 075-644-8143（火 9時～12時、水・木 9時30分～16時30分）bukatu@

事務担当：研究協力・附属学校支援課 研究協力・センター機構支援グループ kenshien@

TEL 075-644-8335、8242 FAX 075-644-8339 E-mail cert@

